

パネル発表「3羽のにわとりと子ども達」

萩原基浩

1 歌垣小学校の紹介

本校は大阪府最北、能勢町にある児童数66名の小規模学校です。1874年（明治7年）9月に発足しました。周囲はなだらかな山々に囲まれた盆地で、山すそは古墳や寺社が点在しています。子ども達は祭礼や盆などの行事を通して、地域の歴史を感じながら生活しています。また、歌垣は栗の栽培、酒造りが現在も盛んな地域となっています。

本校では、高学年から委員会活動が始まります。その中で、飼育栽培委員会になった児童が中心となってにわとりや金魚、学校菜園の世話を行っています。

2 3羽のにわとり

本校で飼育している3羽のにわとりは、5年前に先生が近所からもらってきたものです。それから小屋を教職員で作って飼育委員会で世話を始めました。今年の1学期に全校児童から名前を募集して飼育栽培委員会で話し合い名前を決めました。黒色の「クロッピー（メス）」、白色の「るい（オス）」、黒色に頭から羽の部分に白が混ざった「残雪（ざんせつ）」（オス）です。全校児童から様々な名前が提案され、その数は100種類以上になります。飼育委員会以外の児童も、にわとりのえさやりなどの世話を、自発的にしてくれたり、休み時間には、鳥小屋の周りに子供達が集まっている光景を見ることができます。またクロッピーは、野生のいたちに襲われて片足を失くしましたが、それでも懸命に卵を産み、自分で抱える姿は子ども達に生きる力と勇気を与えています。このように3羽のにわとりは、全校児童からかわいがられながら毎日を過ごしています。

3 飼育委員会の活動

飼育委員会の活動は、毎日のにわとりのえさやりと水替え、また大体週に1回小屋の掃除をしています。世話は二人ペアで行い、役割分担をしたり、6年生が4、5年生を指導したり協力し

ながら行っています。また、にわとりの糞は学級園に運び、肥料として各学年の野菜や花を育てます。そうすることで糞が土の栄養となり、植物の成長の助けになる自然の循環を感じることができます。他にも、時々ご近所の方が野菜くずや古米を持ってきてくれて、子ども達は地域や地元との関係を感じることもできます。子ども達も積極的に楽しそうに、にわとりの世話をしてくれています。

4 これからの課題

課題は長期休暇の世話や野生動物の被害などです。長期休暇中は、教職員で世話をしていますが、年末年始や大型連休の時に、誰が世話をするのが問題になってきます。職員全員が責任をもって、飼育に携わる気持ちが必要なのだと思います。また、本校は山に接している地理となっているので、頻繁に野生動物が現れており、にわとりが襲われる可能性もあります。進入を確実に防ぐ小屋の補強が必要になってくるかもしれません。

5 飼育を通して子供たちが学んだこと

最初は、にわとりを触ることさえ怖くてできなかった子供が、おそろおそろ触れるようになり、今は普通に愛着を持って抱いている姿を見ると、普段の授業では学べない価値が飼育にはあるのだと感じるようになります。現在、突然きれる子供が増加し、親に対する暴力、いじめが社会問題となっていますが「命の大切さ」を、しっかり理解している子どもならそんなことをするはずがないと思います。学校における飼育活動は、その命の大切さを学ぶうえで非常に有効な手段です。本校はこれからも飼育活動を続けて、命の大切さを理解できる子どもになれるように指導をしていきます。そして児童一人ひとりが優しく立派に成長してくれるように教職員が協力していきます。

（能勢町立歌垣小学校教諭）

